

児童園だより

第十、十一合併号

平成二五年三月二十日発行

ながた寿しさんの奉仕

昨年十二月、『ながた寿し』さんによるお寿司の奉仕がありました。築地で仕入れた新鮮な寿司ネタを園に持ち込んでいただき、子どもたちの注文に応えて目の前で握って出していただけるこの奉仕も、今年で四十回。『ながた寿し』さんと児童園は四十年ものお付き合いとなり、児童園では毎年恒例の行事となっています。

児童園の食事では、衛生上の理由から生の魚貝を食卓に出すことはなかなか難しいため、子ども達は美味しいお寿司が食べられるこの恒例行事を、何日も前から心待ちにしています。「どんなお寿司があるのかな?」「今年は何を食べようかな?」「私は絶対に納豆巻きから食べる!」と、幼児から高校生、そして職員までもがそれぞれの想像を膨らませてこの日を待っていました。

当日、数日前から考えていたお寿司を真っ先に頼む子や、メニューを見て迷い、考え直す子で食堂は賑わいました。また、子ども達だけではなく、職員も楽しみにしていたお寿司をご馳走になりました。美味しいものを食べている時は皆自然と笑顔になります。皆がにこにこの笑顔で注文し、それを口に運びまた笑みがこぼれる。口数も増え、皆夢中で食べながら楽しいひと時を過ごしました。お寿司をご馳走になるだけではなく、笑顔や温かい雰囲気、楽しい時間まで作っていただきました。

四十年という長い年月の中で児童園にたくさん笑顔をくださった『ながた寿し』の皆様感謝しながら、これからも末永くお付き合いいただければと思っています。



松本児童園では、毎年五歳になる子どもが七五三をしています。

平成二四年は三人の子どもが対象となり、十一月に行いました。

一週間位前から、対象の三人はソワソワし、「七五三ってなんだろう」「なにするんだろう」と、緊張した面持ちでした。

当日は幼児全体で昼食にお祝い会をしました。そこでは、五歳児の三人が“おおきくなったら、何になりたいか”と“これからがんばること”を発表してくれました。それぞれが自分で考え、発表できたことに成長を感じることができました。そんな姿を見たまだ小さい子たちも「おおきくなりたいな」「お兄さん、お姉さんになりたいな」と思っているように見えました。

昼食後は、いよいよ着物の着付けです。貸衣装のwaysさんより貸していただいた着物を、いつもみんなの髪を切りに来てくれるサロンド・みみさんに着付けてもらいます。緊張した様子ながらも、着物に腕を通すと・・・笑顔がいっぱい。ずっとニコニコです。お化粧をした姿や袴をはいた姿が大人に見え、成長を感じるとともに、職員としても嬉しさが込められてきました。

これからも元気いっぱい、大きくなってね。先生たちはずっと見守っているよ。



野尻湖キャンプ

夏休みに入った八月初旬、野尻湖にキャンプに行ってきました。

天候にも恵まれ最高のキャンプ日和のなか、みんなでキャンプを楽しみました。

まずは、思い切り水遊び！最初は恐る恐る湖の中に入っていた子どもたちも次第に慣れてきて、水の中に思い切りジャンプして飛び込んだり、気持ちよさそうに泳いで思い思いに楽しみました。小さい幼児さんたちも一緒に浮き輪やボートを使って遊びました。

続いては夕食！外で夕食を食べる経験もなかなかない子どもたちでしたが、気持ちの良い風を感じながら、お腹いっぱい美味しいご飯を食べました。自分たちで準備して作ったご飯の味は格別だったようです。

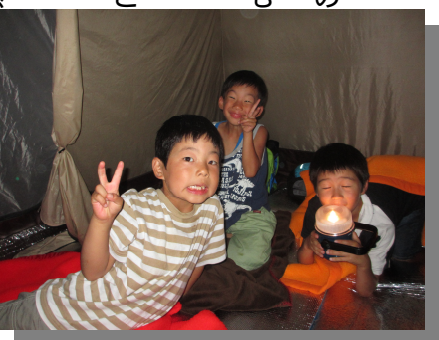
その後も近くのトンネルまで肝試しに行ったり、みんなで花火をしたりとキャンプの夜を思う存分楽しみました。

夜はテントに入り、みんなで寝ました。テントで寝るのは初めての経験！という子どもも多く、なかなか寝付けない子どももいましたが、楽しい夢を見てぐっすり眠りにつきました。

翌日も、朝から水遊びやカヌー体験、野尻湖一周マラソンなど子どもたちがやりたい事を楽しみながらみんなでやりました。

ユニットによっては二泊から三泊した子どももいて、大自然

の中で子どもたちが自分たちで考えて遊ぶことや、みんなで協力をして一つのことをやり遂げることなど、たくさんの大切なことを学べたキャンプだったのではないかと思います。夏休みの楽しい思い出が一つ増えた野尻湖キャンプでした。



球技大会出場

第四十回 長野県児童福祉施設連盟中南信支部 児童球技大会へ出場しました。

松本児童園から出場した選手は、高校生三名と小学生四名の計七名。みんな、何週間も前から一生懸命に練習をしてこの日を待ちました。

自分たちの順番が近づくと、緊張で張り裂けそうな胸を押さえて深呼吸をしたり、チームメイトと手をつないで気合いを入れたりする姿が見られました。

いざ試合が始まると、ボールを見つめる顔は真剣そのもの。結果は、高校生、小学生、両チーム共に見事三位入賞。県大会まで進むことができました。

自分や仲間の一球に一喜一憂し、大声で応援するその姿は、普段の生活の中ではなかなか見せない、立派なスポーツマンとしての勇姿でした。このような場面を見る度に、子どもたちの成長を実感します。

松工インターアクト餅つき

平成二四年十二月二日、松工インターアクトクラブの生徒と餅つきを行いました。

当日は、天候にも恵まれ予定通り中庭にて餅つきを行うことが出来ました。

昨年の餅つきでは、職員同士の連携がうまく行かず芯が残ったような餅が出来てしまい児童も職員もがっかりとした様子でした。どうしたらうまくいくのか一人一人が考え当日に備えていました。

そのため、子どもたちも職員も昨年度のリベンジとばかりに気合を入れ、声を掛けあい一生懸命作業する姿が見られました。本年も餅は、もちもちのお餅で口々に美味しいと言って食べていました。多くのご協力のもと大成功という形で終わる事が出来ました。



おもちゃ王国招待

平成二四年十一月、軽井沢おもちゃ王国さんより招待があり、子どもたちと行ってきました。

今回は松本市のバスを借り、二十二人の子どもたちと、ワクワクしながら出発進行。行きの道中では、おやつを食べたり、お話ししたりして行きました。「いつ着くの?」「まだ?」と慣れない長時間の移動に疲れてきた子どもたちでしたが、浅間山やおもちゃ王国が見えてくると「着いたあ」「早く降りたい」と足早に準備をし始めました。

小学校高学年の子どもたちは、毎年招待していただき慣れていることもあり、子どもたちだけでどんどん乗り物に乗ったり、アスレチックやイベントに参加したりと、職員顔負けの行動力です。「先生、〇〇に行ってきたよ」「〇〇回も乗ってきたよ」と、とても喜んでいる姿が何度も見られました。

初めて来る子どもも多く、観覧車やメリーゴーランド等、様々な乗り物に緊張し怖がりながらも、乗ると楽しく、喜んでいました。また、リカちゃんハウスやプラレールハウスもあり、いつもケンカになってしまうおもちゃも仲良く遊んでいて、とても微笑ましい姿も見ることができました。



昼食は子どもたちの大好きなバイキングで、いっぱい食べていました。

帰り道は、子どもも職員も遊び疲れ、バスの中で熟睡。思いつきり遊べるいい機会となりました。幼児では今でも写真を見る度に、「行ったよね」と話題に上り、「一緒に行こうね」とまだ行っていない小さい子に声を掛けています。

毎年、招待してもらっているおもちゃ王国さんに感謝の気持ちを忘れず、子どもたちにとって素敵な思い出のページになってほしいと思います。

